

都市計画マスタープラン改定にあたっての主な視点

1. 君津市の現状（現行計画 p.102 の評価項目）

(1) 豊かな自然と人の温かさに触れる「顔」のみえる都市づくり

- 都市的土地利用検討ゾーン(君津 IC 周辺、君津 PA スマート IC 周辺)については、都市的土地利用の誘導手法について庁内で検討しています。(ヒアリング調査結果より)
- 開発許可の動向は、H27～R2 年度の過去 6 年間で 13.85ha、単年平均で約 2.3ha となっています。開発の目的別にみると、本市における開発許可は住宅系に特化しており、6 年間で 11.2ha で、全体の 80.9%を占めています。なお、商業系の開発は、1.46ha、その他の開発は 1.19ha となっており、工業系と公共系の開発は行われていません。
- 農地転用の動向は、H27～R2 年度の過去 6 年間で累計件数 1,175 件、面積 802,739 m²となっています。過去 6 年間の農地転用累計面積に対する割合では、市街化区域が 34.3%、市街化区域外が 65.7%となっています。
- 観光入込客数は、H28 年の約 307 万人をピークに平成 30 年に掛けて減少していますが、R1 年には再び増加に転じており、約 287 万人となっています。

(2) 様々なライフスタイルに対応した暮らしの場がある都市づくり

- 国勢調査による人口の推移をみると、H7 年時点の 93,216 人をピークに減少に転じており、R2 年では 82,249 人となっています。
- H27～R1 年の 5 年間の生産年齢人口の社会増減の推移をみると、毎年 2,000 人前後が転入している反面、毎年 2,400 人前後が転出しており、400 人前後の転出超過の状況が続いています。
- H28 年 3 月 31 日時点の市街化区域内のその他の空地(未建築宅地、造成中の土地、駐車場等)の面積は 74.9ha(市街化区域の 3.4%)となっています。

(3) 安全・安心で利便性の高い都市づくり

- 都市計画道路の整備率は約 95%となっています。(R3.4.1 現在)
- 道路の構想路線の具体化に向けた検討は、都市計画道路北子安貞元線の延伸は未実施ですが、(仮称)外箕輪・貞元線道路新設改良(外箕輪～八幡地先)は新たなルートの検討などを行っています。(ヒアリング調査結果より)
- H22 年度以降の主要鉄道駅 1 日当たりの平均乗車人員は、君津駅、久留里駅とも緩やかな減少傾向にあります。
- H30 年の東京都市圏パーソントリップ調査による自家用車の分担率は 76.1%となっています。H20 年と比較し、自家用車の分担率が増加、徒歩とバスが横ばい、その他が減少となっています。
- H24 年度と H30 年度の消費者購買動向調査による君津市の最寄り駅に該当する地元購買率は、衣料品は 5.7%、食料品は 17.6%、飲食は 19.3%増加しています。

(4) 高い産業力が持続的な発展を牽引する都市づくり

- 製造業従業者数は、H25 年以降も増減を繰り返しながら R2 には 7,990 人となっています。
- 製造品出荷額は H25 年以降も緩やかな減少傾向にあり、R2 には 7,318 億円となっています。
- 小売業従業者数は、H9 年から H11 年にかけて約 20%増加しましたが、その後はほぼ減少傾向で推移し、H28 年には 4,027 人となっています。
- 年間商品販売額は、H11 年の 1,832 億円をピークに減少傾向にあり、H28 は 922 億円となっています。
- 農業従事者数は、H2 年の 10,845 人から H27 年には 3,722 人となっており、25 年間で約 6 割近く減少しています。
- 経営耕地面積も H2 年の 3,052ha から H27 年には 1,860ha になっており、25 年間で 1,192ha の減少となっています。
- 耕作放棄地は H2 年の 204ha から H27 年には 628ha へと 15 年間で 424ha 増加しています。

2. 上位関連計画

現行計画の策定(H27.3)以降、様々な上位関連計画が策定及び改定されています。各計画との整合を図りながら、今回の改定計画を検討します。

H27 年 3 月以降に策定及び改定された

主な計画

- 総合計画 基本構想(R3.9)

将来都市像

「ひとが輝き 幸せつなぐ きみつ」

将来ビジョンを実現するための柱と将来の姿

- 柱1 経済と環境が調和したまち
- 柱2 誰もがいきいきと生活できる地域共生のまち
- 柱3 安心して子育て・育ちでき学びを楽しめるまち
- 柱4 快適で安心して暮らせるまち
- 柱5 ともに創る次世代につながるまち

- 人口ビジョン(H28.3)
- 第 2 期「まち・ひと・しごと創生」総合戦略 (R2.3)
- 公共施設等総合管理計画(H29.3)
- 地域公共交通網形成計画(H28.3)
- 景観計画(H30.12)
- 地域防災計画(R2 年度修正)
- 国土強靱化地域計画(R3.3)
- 空家等対策計画(H31.3)
- 第2次環境基本計画(H27.3)

3. 今後の都市づくりに向けた視点

改定計画の検討にあたっては、近年の都市を取り巻く環境の変化により、都市計画に関する動向を踏まえます。

主なキーワード

- 防災・減災が主流となる社会の実現(気候変動の影響を踏まえた治水対策、災害リスクの提言 など)
- インフラ老朽化対策
- 持続可能で暮らしやすい地域社会の実現(コンパクトプラスネットワーク、オープンスペースの充実、バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進 など)
- 経済の好循環を支える基盤整備(物流ネットワークの構築、観光客受入環境整備など)
- インフラ分野の DX の推進
- インフラ分野の脱炭素化・インフラ空間の多面的な利活用による生活の質の向上(地球温暖化対策、グリーンインフラ、ウォークアブル など)
- 新型コロナを契機とした都市づくり
- 市民・事業者・行政の協働による都市づくり

5. 改定にあたっての主な視点

(1) コンパクトなまちづくりのあり方

- コンパクトな都市構造
- 歩いて暮らせるまちづくり

(2) 持続可能なまちづくりのあり方

- ① 豊かな自然と人の温かさに触れる「顔」のみえる都市づくり
 - 生活環境と自然環境の保全
 - 脱炭素社会の推進
 - 家庭用省エネ・再エネ設備等の導入促進
- ② 様々なライフスタイルに対応した暮らしの場がある都市づくり
 - 誰もが移動しやすい公共交通機関の整備(バリアフリー化の推進、鉄道および民間路線バス、コミュニティバス等の最適化、高齢者等への移動支援)
 - 多様な暮らし方を支えるまちづくり
 - まちの活力及び暮らしの質の向上、まちの魅力強化
 - 身近な場所で学び続けられる環境の整備
 - 多彩な文化・芸術に触れ親しむことができる環境づくり
 - 文化・芸術に係る環境の整備
 - 市街地の都市機能の充実
 - 良質な住宅の普及促進
 - 空き家の利活用促進、空き公共施設等の利活用推進
 - 公園のリニューアルを始めとした都市空間の新たな魅力づくり
- ③ 安全・安心で利便性の高い都市づくり
 - 都市のさらなる強靱化(災害に備えた環境の整備、水害を防ぐ河川環境の整備、災害からの迅速な復旧復興)
 - 日常生活の安全・安心に向けたまちづくり(地域が一体となった防災対策、平常時から始める減災対策、災害からの迅速な復旧復興)
 - 公共施設・インフラなどの都市施設の適切な維持管理・更新(安全で快適な道路環境の実現、道路インフラの計画的なメンテナンスの実施、公共施設再整備の推進)
 - 安定した公共下水道の整備・普及
 - 子どもから高齢者、障害のある人など誰もが健康でいきいきと生活できるまちづくりのあり方(障害福祉サービス提供体制の充実、障害のある人が自分らしく暮らせる環境づくり)
 - スポーツ環境の整備
- ④ 高い産業力が持続的な発展を牽引する都市づくり
 - 産業を支える都市の骨格づくり
 - 農業体験、食育等による都市農村交流の促進
 - 観光資源の磨き上げ
 - 幹線道路の整備促進

(3) 先端技術の進展を踏まえた都市づくりのあり方

- MaaS、スマートシティ、自動運転、AI などの先端技術の進展を踏まえた都市づくりの推進のあり方(自動運転技術の活用に向けた研究)

(4) 新型コロナ危機を契機とした都市づくりのあり方

- 職住近接、身近なみどりとオープンスペースの拡大、人中心の歩きやすい空間の創出など、新型コロナ危機を契機として生じた変化に対応した都市づくりのあり方

(5) 協働のまちづくりのあり方

- 市民参加、公民連携など、協働のまちづくり推進のあり方(市民と共につくるまちづくり)
- 広域連携によるまちづくり

4. 市民意向調査結果(R2.8 実施)

(1) 君津市が目指すべき将来像

君津市が目指すべき将来像は、「健康福祉都市」が 67.5%と最も多く、次いで「生活安全都市(45.1%)」「環境共存都市(42.7%)」「生活利便都市(31.9%)」の順となっています。

(2) 都市基盤にかかる満足度と重要度

今後対応をしていく必要のある「満足度が低く、重要度が高い項目」は、「公共交通網の整備」、「道路網の整備」、「上・下水道の整備」、「自然環境の保全」となっています。